

自己評価報告書(最終報告)

報告者

生活・健康系コース(保健体育)／南 隆尚

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ. 学長の定める重点目標

Ⅰ－1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

1. 目標・計画

平成23年度4月から1月まで、筑波大学体育研究科で内地研修に赴く予定である。3月の震災の影響もあるが、十分な成果が得られるよう、研鑽に励みたい。この機会にいいよ施行される新指導要領の内容を鑑みながら体育・保健体育の内容を精査したい。

研修の主たる課題は水泳競技ならびに医科学に関わるものであるが、教科専門ならびに教科教育の教員として水泳教育と野外教育に昇華できるよう研鑽を深めたい。まず水泳では学校教員として子ども達を救助できる教員自身の泳力、子ども達に自らの自己保全ができるような泳力を習得させる教授能力の2点に着目する。これまで外部組織やスイミングとの連携などを模索してきたが、しこうさせる基礎的に習熟すべき内容を吟味する必要がある。また野外教育では、これまで冒険教育と環境教育の主眼に実践してきたが、そこにサバイバルと言われる保全能力の育成にも着目したい。そのため津波に対する被害と避難生活による飲用水の確保など「水」に着目した教育内容も模索する。

2. 点検・評価

平成23年度4月から1月まで、筑波大学体育研究科で内地研修に赴き、研鑽に励んだ。研修の主たる課題は水泳競技ならびに医科学に関わるものであった。筑波大学の研究・指導体制、実験環境、験者ならびに被験者は、希望に叶う環境があった。泳法に関わる圧力と動作分析、実践に発揮される力の大きく3つの観点から予備実験を進めた。残念ながら取りまとめるまでの成果は挙げられなかったが、今後、同学協力のもと研究を進めたい。水泳教育の調査研究を行ない、外部指導者との協力を観点に研究をまとめた。野外教育では臨床心理士の資格をもつ指導者による長期キャンプに参加し、本学での野外教育の充実に寄与できるものとする。特に水辺活動について深く情報交換を行なうことができた。2月の復職後は、残された集中授業等を実施し、来年度の授業実践に行かせるような計画を立案した。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

○内地研修のため、集中形式による授業実施が多くなる。行いく内容を吟味し、ポイントを効果的に伝える工夫をする。
 ○発言・討論の場面を設け、自己肯定力と同時にコミュニケーション能力の育成を狙う。
 ○実習においては、野外での活動を伴うことが多く、事前のオリエンテーションを充実したものにし、安全かつ自律的に参加できるよう工夫する。実技に関して「リスクマネジメント」の観点を設け、教員としての危機意識を高める。
 ○内地研修のため、ゼミ指導学生にはメールやインターネットを活用し、遠隔指導を実施する。
 ○研究に関するゼミ活動の他、指導教員に関わらず学生に時事の諸問題を取り上げ発表してもらう時間を共同で設けている。学生の言語能力に役立つため今後も継続して実施する。

2. 点検・評価

○内地研修のため、集中形式による授業実施が多くなったが、必要な授業は無事実施することができた。
○授業の発言・討論の場面は集中のため、あまり設けることができなかった。
○実習においては、事前のオリエンテーションが例年より差し迫ったものとなったが、実習自体は事故無く、終わることができた。また卒業研究の実験を並行して行なうことができた。その反面、学生の主体的な場面が少なくなった。
○内地研修のため、ゼミ指導学生にはメールやインターネットを活用し、遠隔指導を実施した。上記の通り、卒業研究の実験も進めることができた。

II-2. 研究

1. 目標・計画

○スポーツのスカウティングに関するリアルタイムゲーム分析とインターネットによるフィードバックシステムを開発している。映像データベースの構築とネットワーク開設をする。
○水泳時の巻き足の応力測定を改良した推力測定装置と圧力センサーによる計測を計画している。
○四国遍路において、これまで受講生にフィードバックしてきた身体と精神性について行った心理テストを体育学的な視点からまとめる。
○ジュニア期における柔軟性とコーディネーションのトレーニング方法について研究する。
○野外教育における指導者養成プログラムの開発にあたっている。特に「水」に着目した野外活動の研究を進める。

2. 点検・評価

○水泳教育の実状を把握すべく調査を実施。多くの学校で水泳教育の問題点を抽出する結果を得た。日本水泳水中運動学会にて発表し奨励賞を頂いた。
○水泳時の巻き足の応力測定を改良した推力測定装置と圧力センサーによる計測は予備実験を敢行し、それぞれ成果を得たが、統合したデータとするには至らなかった。
○スポーツのスカウティングに関するリアルタイムゲーム分析において新たに簡易端末(iPad)を用いたシステムを作成。ゲーム分析におけるフィードバックの充実が進んだ。目標であったインターネットによるフィードバックシステムと映像データベースは開発途中である。
○ジュニア期における柔軟性とコーディネーションのトレーニング方法について研究を深め、少年サッカーのクラブチームなどでの実践も始めた。
○野外教育については臨床的なアプローチを行う活動に参加し、新たな教育・研究方法を修得すべく研修を進めた。

II-3. 大学運営

1. 目標・計画

○内地研修にあたり、各種委員からの任は解かれている。他大学と交流し、大学の将来像に寄与しうる情報収集に心がける。

2. 点検・評価

4月から1月まで内地研修にあたり、各種委員では活動は無かった。
研修中は大学院生として入学実績のある大学との交流に務めた。
復職後、保健体育コースの管理するトレーニングルームや野外演習場の整備等にあたった。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

○アドバイザー制度に参加し, 附属学校園の他, 県下の学校との連携を密にするための一助となる。
○日本赤十字救急法指導員として地域の防災ボランティアに協力する。
○日本オリンピック委員会強化コーチならびに(財)日本水泳連盟水球委員会強化スタッフとして活動し, 世界トップレベルのスポーツパフォーマンスに関する見聞を広め, またジュニア世代の育成に努める。また授業の他, 学生や徳島県下のスポーツ場面にフィードバックする。

2. 点検・評価

○内地研修中につき附属学校との連携事業などコース教員に代わっていただいた。
○日本オリンピック委員会強化コーチならびに(財)日本水泳連盟水球委員会強化スタッフとして活動した。特に水球男子日本代表チームのアジア・オリンピック予選に協力したが, 残念ながら敗退した。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)